

公民館の

「コミュニティセンター化

問 市が考える地域コミュニティの将来像とは。

答 これまでの行政による公平・均一な取り組みに加え、コミュニティセンターを拠点として市民と行政が、地域の特性や良さを活かした取り組みを協働で実施することにより、力強い地域コミュニティの充実を目指していきたい。

問 コミュニティセンターに求める新たな取り組みとは。

答 これまで公民館で行われている「社会教育活動」や「公民館まつり、地区体育祭、防災活動などの公民館事業」に加え、①高齢者、子育て支援、健康づくり事業②地域防災力向上事業③交流・にぎわいづくり事業を三本柱として「新たな特色のある地域づくり事業」に取り組んでいきたい。



高尾地域づくり協議会で行われている「茶論deミナミ」

近年の災害を踏まえた

新たな取り組みは

問 指定避難所近くの駐車場を、屋外避難所として位置付ける考えはあるか。

答 避難所に近接する民間企業の駐車場やグラウンドを、災害時における屋外避難所として提供いただけるよう協議を重ね、防災協定などの締結を進めていきたい。

ヘルプマークの活用は

問 静岡県はヘルプマークの活用の検討をしているのか。

答 現在、障がいのある方などに配慮を促すマークは数多くあり、県としては全国一律の取り扱いが望ましいとの考えであると伺っている。

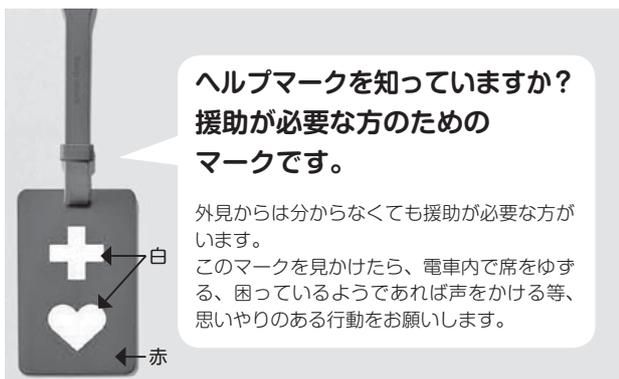
問 市はヘルプマークの活用をどのように考えているか。

答 障がいの種別や身体の症状に関係なく、外見から援助や配慮が必要と判断できない方であっても、ヘルプマークを着用するなどの方法で、援助を受けやすい環境を作ることが必要である。今後、ヘルプマークを効果的に活用するため、県単位での広域的な取り組みになるよう近隣市町とともに県に働き掛けていきたい。

災害拠点給油所整備は

問 災害に備えて常時満タン運動の取り組みを提案するが。

答 日頃から各自の車両に一定量の燃料を確保しておくことで、災害時における燃料不足や混乱を軽減する効果が期待できると考えている。市民の皆さまにも自助の観点から、一定量の燃料確保を促していきたい。



東京都が独自に作成した「ヘルプマーク」